



Title	＜書評＞「フーリエの冒険」（トランスナショナルカレッジプレックス編，ヒッポファミリークラブ，3605円）
Author(s)	ナミのナミ
Citation	大阪公衆衛生. 1990, 57, p. 22-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83668
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『フーリエの冒険』

トランスナショナルカレッジオブレックス編
(ヒッポファミリークラブ 3605円)

ドラゴンクエストⅣの異常な人気ニュースになっている。あるひとつのことを達成するのに少しの努力が必要、解決できると満足感がえられる。次の目標を達成するのにもう少しの努力が必要、解決できると満足感、これがくりかえされ最終的な結論まで導かれるという構成に人気があるのかもしれない。

フーリエ級数、フーリエ変換という数学の一領域がある。たいへんむずかしい分野である。この学問を理解する(単位をとる)ために、苦勞した人も多いのではないだろうか。ところがこの難解な数学が、中学生にでもわかるように書かれているのがこの本である。

この本の著者は、有名な先生ではなく、ファミコン世代の若者たちである。「言語音声と人間の認識」を議論していた彼らが、その過程で使っていた『フーリエ』を他の仲間に、わかりやすく理解させようとしたものである。

ある知識を人に伝える場合、その媒体として著作物があり、その典型が教科書である。しかし、教科書はかたくりしい。わかりやすい説明(講義)を受けながらならまだしも、一人で学習するには睡魔との戦いも不可避である。

この本の内容を理解したとしても、『数学という“もうひとつのことば”を理解することで、自然を見る視野が一挙に広がる』くらいで、公衆衛生にはほとんど役に立たないと思われる。しかし、不特定多数の人にわかりやすく知識を伝達する方法のひとつとして、このような著書の書き方もあるということが学べるだけでも、一読に値する一冊であろう。

(ナミのナミ)